



ガンバッテいきます



坂口さん一家。左から(恵弘さん、清美さん、将大さん)



坂口 清美さん
JA熊本市直売所「夢未来」出荷者



本島 秀逸さん
JAやつしろ 園芸部長

坂口さんは熊本市菊南の出身です。農業歴は25年になります。現在は義母と坂口さん夫婦に息子さんの4名でキュウリを主に作っています。

●**メロンからキュウリへ**
坂口さん宅では米30a、キュウリ1haを生産しています。7〜8年前はメロンを生産していました。しかし、光熱費の高騰や、黄化症の問題が悩みでした。さらに台風で本木がすべて飛ばされ全滅するという事態に。そこで緊急にキュウリの苗を植えたそうです。「一度収穫した次の日に、またキュウリが大きくなっているのはびっくりしました」という坂口さん。メロンよりも資材代が安くなったこと、JA熊本市の

直売所「夢未来」の開店で、少量でも出荷できるようになったので、本格的にキュウリに転作することになりました。

●**キュウリがたくさん**
キュウリは定植後約1ヶ月で収穫を始めます。夏場は2〜3ヶ月間、冬場は5ヶ月間くらい収穫が可能です。夏期にカシラ、冬に極光という品種をすべてビニールハウスで栽培。UVカットのビニールを使用して害虫の繁殖を抑えています。坂口さんは「雨よりもハウスを倒してしまふ風が怖いです。また例年になり豊産で、キュウリが曲がってしまうことが多くなりました」と話しました。

ハウス内の作業では、熱中症に注

意しています。晴れよりも薄曇りの方が危険です。「水分補給かわりに折れたキュウリをかじったりしますよ」とのこと。また袋詰めするときには袋の中のキュウリ同士がこすれて傷つかない様、空気をできるだけ抜いて止めます。最高で1日8,000本を袋詰め。夏は収穫も出荷も多く、袋詰め作業に追われるそうです。

●**直売所にしよう**
坂口さんは直売所以外にも、移動販売車や、ゆめタウン3店舗、マックスバリュ4店舗、ゆめマート常山内の直売所「コーナ」に出荷。晴れの予報がでた時は出荷量を増やします。また販売店によって本数を変えます。基本は2本ですが、他の生産

地と差別化するために袋一杯にしたり、やや短めの3本を入れたりします。値段が高い時には本数を少なくします。

シールやバーコードを作りに行くときは、商品の売れ行きや、他の価格差をチェックしています。「市場価格の変動で一言「憂する」よりも、直売所の値段は自分で決定できるのじゃない」と話してくれました。

●**これからの抱負**
坂口さんは、これからの抱負として「市場と直売所とに半々で出荷していますが、価格が安定している直売所を中心にしたい。そして加工品も作ってみたいですね」と話してくれました。

鏡町北新地で、主にトマト栽培をしている本島秀逸さん(66歳)取材しました。

本島さんは県野菜振興協会の園芸部長会長でもあり、農政連の委員としてもお世話になっています。

●**草からトマトへ**
トマト生産高日本一の熊本。そして、八代の「はちへえトマト」が日本一。こんなに生産量が増え、八代がトマトの一大産地になるとは思いもよらなかった。土があっただけの地に入植し、現在に至っています。

4人兄弟の長男であった本島さん

は、熊農高を卒業と同時に就職。42歳の時に、草の価格暴落を機に作付けを断念し、「当時から作っていたトマト栽培に専念した」といいます。

現在は、加温ハウスでトマト2haにメロン60aを、本島さんと夫婦と息子さんに加え、中国人実習生4名と地元の人2名を常雇し、農作業にあたっています。

●**馬糞で土づくり**
トマトは10月初旬から翌年の6月20日まで収穫し、苗を定植する8月20日までの2か月間は土を休ませます。これは「コナシラミ」の繁殖を防ぐために、八代全地区で申し合わせて実行しているとのこと。

農業は土づくりが基本と言われ

ますが、本島さんは塩分が比較的少ない馬糞を使って対応しています。「昔から肥しは馬糞がよか」と言われていたとのこと。県内の食肉馬生産者から購入し、自宅の厩舎肥害で発酵させて使用しているそうです。「おかげで反収も結構上がっている」といいます。

●**先を見越して**
健康ブームを背景に、トマトの消費が伸びているとのこと。今日の八代トマトがある。しかし、この勢いがいつまで続くかわからないと言います。本島さん。廃業しているトマトの活用や、市況を見ながらの出荷、海外への輸出体制をどうするかなど、将来を見据え検討しています。

JAでは現在、廃業トマトを使う

て、ドライトマトなどの加工品も作っていますが、規模が小さいので「加工場の規模を大きくすること」と、一時保存するための予冷施設の建設を、JAに要望しています。

園芸部会の役員としても活動している本島さんは、「月の約半分は部会の仕事もあり、好きなアヲ釣りも中々できません」といって、役を返したら釣りとトマト作りを半々で暮らしたい」と語る本島さんでした。

●**好きな言葉**
チャレンジ
「これまで独学をしながら、自分の思ったことに挑戦してきた。今後は、今以上に反収を上げることに挑戦していきたい」